

藤 沢

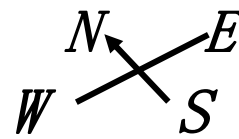
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2025年5月1日

第372号

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

主
な
記
事

- ・ 福島原発事故 14 年展
- ・ 「ここであらう」ってなあに
- ・ 日本の農業
- ・ 新緑の中で野鳥と出会う

憲法を生かし平和な国民の暮らしと命を守ろう

戦後80年、現在の憲法ができ78年になります。この憲法のもとで日本は世界のどこの国とも紛争を起こさず平和な日本を守ってきました。

日本国憲法は前文で「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることの無いようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。」と書いてあります。憲法の冒頭で「国民主権」「恒久平和」「基本的人権」と憲法の三原則を明記しています。日本の最高法規です。そして憲法9条では、「国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する(戦争の放棄)」となっています。

さらに憲法には25条、人間らしく豊かに暮らす権利、13条、誰もが幸せを求めて生きられる社会になどが記されている素晴らしい憲法です。

《憲法9条を中心に改正し、戦争する国づくりの動きが急ピッチに強まってきている》

アメリカのバイデン政権、トランプ政権の強い圧力のもと、日米軍事同盟の強化の中で憲法違反の集団的自衛権の行使容認、敵基地攻撃能力の保有を進め「戦争できる国」から「戦争する国」へ突き進んでいます。

自民党は国会での憲法改正発議に向けて改憲4項目 ①自衛隊の明記 ②緊急事態条項 ③参議院の合区解消 ④教育の無償化を掲げ憲法改正を狙っています。

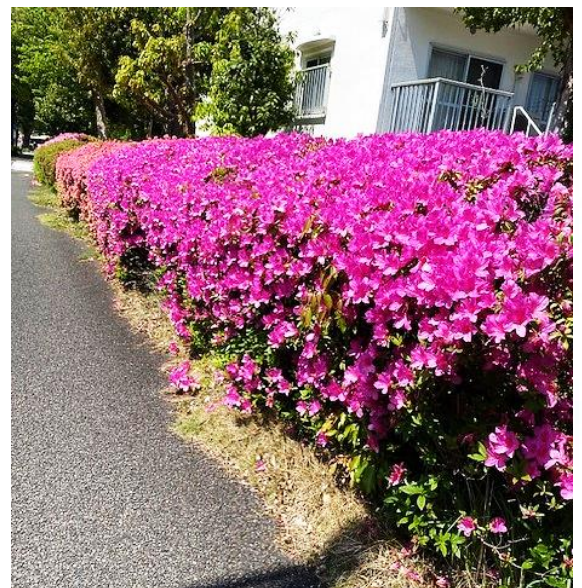
《抑止力、核抑止を強める》

自民党石破政権は、世界各地で起きている紛争、戦争による国民の不安感をあおって日本も抑止力を強めて国民の命を守ると言って軍事費を大幅に増加しています。

抑止力とは、相手に恐怖心を与え攻撃を思いとどませるという事です。しかし相手国もそれを上回る軍事力の強化で抵抗してきます。抑止力という軍事力の強化は軍事対軍事の危険な道です。武力では平和は守れないことは世界各地で起きている紛争を見れば明らかです。

《今こそ平和外交を》

憲法9条を持つ日本だからこそ 日米同盟絶対、軍事同盟で相手国を包囲するのではなく平和外交に全力を挙げるべきです。戦争反対 憲法改正反対の対話、署名を軸にして世論を高めていきましょう。(品川邦之)



ツツジ 湘南ライフタウンの道路沿いで

日本の農業

神奈川県母親大会で鈴木宜弘さん（農学博士東京大学大学院特任教授）の講演を聞いた。

今コメ不足で昨年の2倍の高値で消費者は苦しんでいる。農家も黙っていない。3月30日にはトラクターで農家に所得補償を求める「令和の百姓一揆」と呼ばれる東京でのデモ行進が行われインパクトあった。それでも動かない政府はようやく備蓄米を放出したが値は下らない。

以下講演から流ちょうなお話とユーモアも交えて、このところのお米の品不足、なぜか？を解き明かしてくれた。

先ず農業予算は1%と低く、このままでは自給率が下がる。農家は肥料代高騰などで赤字となり時給10円ほどでは生活ができない。コメの買占めなどのせいではなく、生産の絶対数が少ないからだと言った。減反政策により作付面積が減ることでコメ不足が起きた。「食糧安全保障」を掲げた政府の農家への支援の低さから農業離れ、後継者不足となる。できるかぎり輸入を増やす政策である。

元々、日本はコメ自給率が高かったがそのコメさえ作れなくなり、10年後には国民は飢餓状態となる。先祖から受け継いだ農地を、地域の農を守る、自給率を高める運動が今まで以上に必要であると。

酪農家も大変な時期に来ていて、酪農をやめると職を失う者も多い、牛乳が飲めなくなる。国産は、圧倒的に足りていないのだから、総力を挙げて生乳を増産していくことが求められる。そのためには、生産抑制ではなく増産である。

それなのに、乳牛の飼育頭数は減少を見込み、生乳生産は現状維持、飼料自給率も現状維持、といった「何もしない」方針が政府から出されている。乳製品の多くは輸入である。不足と過剰への場当たりの対応で、酪農家は翻弄され、疲弊してきたので酪農家が限界に来ている。

有事の時はさつま芋を増産させ、あるいはコオロギなどを食糧にと、果たして生きのびることができるのか？と。最後はパンチの利いた言葉で、国民の命を守る農業にお金を使い、武器を買う3兆円あれば守ることができる。地域での踏ん張りが希望の光になると政策転換を説いた。（荒井）

「福島原発事故 14 年展」

神奈川県民センターにて3月28日～4月3日開催され、延べ630名ほどが参加した。

原発事故の翌年から始まった保養、リフレッシュ活動には、沢山の方の寄付や助成金を頂いて、放射線量の少ない藤沢への保養に被災地の親子を招く活動や学習会を続けて来たので、保養団体の連絡会「いのち神奈川」の一員として参加。

神奈川への避難者の裁判を闘う展示、イノベーション構想で変わりゆく被災地の様子や「いのち神奈川」に参加団体の地元の汚染調査など、みなさんの篤い想いに触れる良い機会でした。

豊田直巳さん（フォトジャーナリスト）の写真も、山内



豊田直巳さんのお話し

若菜さんの絵画もゆっくり何度も拝見できた。

山内さんの大作、第五福竜丸展示会場でも拝見していましたが会場の壁面いっぱい広がった絵の迫力は圧巻だった。原発への怒りと、命への慈しみをあんなに大きな和紙

に描く山内さんのパワーに改めて励まされると同時に「最近希望を描き込むようになり絵が少し明るくなりました」と語る言葉にホッとした。また、三原由起子さんのみずみずしい短歌を知ったこと、東京新聞の荒井記者とお話できたことも大きな励みに。

先日亡くなられたローマ法王も読まれた絵本「ひまわりの丘」を、大磯のお子さん達が英語と日本語の朗読劇を聞かせてくれたので、さっそく本を求め孫達にプレゼント。

中村敦夫さんの一人芝居は、横須賀で見る予定がコロナで叶わずにいたがDVDを求めたお陰で数年ぶりの願いが「14年展」で叶った。2度の原爆投下を経験した日本、水爆実験の灰を浴びた第五福竜丸の周辺には千隻もの漁船がいたこと。湧き上がった反核運動を見据えて「核の平和利用」なる原子力発電が推進され、54基もの原発を受け入れてきた歴史。

先日、新潟県議会で柏崎刈羽原発再稼働を問う県民投票条例案が否決。花角知事は「〇か×かだけでなく、もっと県民の意見を聞きたい」と発言されているので、第3案として『ホワイト水素発電所』を選択肢に提案したい。九州程の面積の台湾政府は、4基ある原発を4年以内に止め、使うその場で発電する100万kWhの『ホワイト水素発電所』を100数基、1,000万kWhを4基設置するとか1/14発表している。

台湾と同じように中東からの化石燃料に頼る日本は、毎日90億円もの原油を輸入。脱炭素、脱原発を求めるならば『ホワイト水素発電所』を選択肢に入れて考えたらどうだろう。

福島復興のシンボルとして浪江町の東京ドーム5個分の広さに5,700億円の国費を投じて造った太陽光発電の電気で水を電気分解して水素を取り出す『分子状水素』施設は2019年2月に稼働。6年後の今年、台湾に先を越されたけれど、日本も原発に換わるエネルギーを選択肢に考えたい。



「ひまわりの丘」を朗読する大磯の子どもたち

三原由起子さんに台湾の話を伝えたら「原発事故で暗い話の多い中で、希望の持てる話」と言ってくれた。若い三原さんの感性でこれからのエネルギーチェンジを紡いだら、どんな短歌がうまれるだろう。

(野田美雪)

【ここでくらっそ】ってなあに？

「市民会館が来年の3月に閉館後、5～6年使えなくなるんだって！」「えーっ！」というやりとりがまだまだ多く聞かれ、OUR Project(生活・文化拠点再整備事業)についての情報が十分知られていないことを痛感します。

市民会館は学校の合唱祭や習い事の発表会、はたちのつどい、コンサートや講演会、昭和40年代には結婚式場など広く市民に親しまれてきた文化芸術・交流のよりどころです。

一緒に整備が計画されている南図書館や奥田公園なども含め、建て替えればこの先何十年も藤沢市民とともにまた新しい活動が育っていく大切な場所となるでしょう。市民が関心を寄せて再整備の行方を主体的に見守り、完成した施設をどんな風に自分たちが使っていきたいのか？、そのエリアや施設を中心につながりを広げどんな街になっていったら良いのか？考えるきっかけになることを願って第2回文化芸術フェスタ・藤沢『ここでくらっそ』は開催されます。ぜひ多くの市民にご参加いただき、楽しさや未来への希望を共有したいと思っています。

今回は大ホールと前庭を使い、来場者と双方向にやりとりするステージパフォーマンスやショップ、ワークショップが展開されます。また当日16:00からのグランドフィナーレでは、未来への希望を乗せた紙飛行機を大ホールで一斉に飛ばす！などこれまでにない市民会館の使い方も模索中！当日ボランティアも大募集しています。一緒に創りませんか？

第2回文化芸術フェスタ・藤沢『ここでくらっそ』

公益財団法人 藤沢市みらい創造財団

文化芸術活動団体事業助成事業

とき：2025年5月31日(土) 10:00～17:00

ところ：藤沢市民会館大ホール&前庭

主催：藤沢の文化芸術を考える会後援：藤沢市

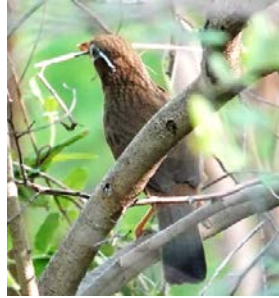
(『ここでくらっそ』実行委員長ズ 磯谷雅代)



新緑の中で野鳥と出会う

—山はすでに春の装い、野鳥たちもまた—

晴れて暖かくなった4月下旬、2週間ぶりに遠藤笹窪谷公園から遠藤山崎に行きました。すでに木々は芽吹き、雑木林は淡い緑でいっぱい、ただ風が強く鳴き声も消え入りそう、そこに林の中でなにかが動いたので双眼鏡で確認すると、ガビチョウでした。口に加えた枝は巣の材料なのか、直にどこかに飛んでいきました。多くの野鳥が今は巣作りで忙しいようです。



突然、梢で鳴く声が聞こえました。長く流れるように鳴くメジロの「さえずり」枝をくわえたガビチョウでした。まるでホオジロの

(「一筆啓上仕り候」と鳴く)に聞こえてしまいます。メジロの冬の地鳴き(じなき)のキュルキュル、ピーピーとは、まったく違い戸惑ってしまいます。

—遠藤山崎の畑で—



畑の中をゆうゆうと歩くキジ

公園をででの帰り道、以前はキジに会えた畑のある場所にきました。昨年ペアのキジに出会ったことを思い出していると、突然オスのキジが現れました。

成鳥です。この時期ですから激しく羽ばたき鳴く「母衣(ホロ)打ち」かと思いきやそぶりさえみせません。まだ縄張りを持たない若鳥なののでしょうか？私の前を恐れもせず、ゆったりとした表情で歩いていきました。

同じ畑の電柱にチョウゲンボウが降りてきました。畑の中のネズミでも狙っているのか、2回ほど試したのですが、成果は上がりません。風がとにかく激しく失敗でした。止まる場所を変えながら狙っていたようですが、収穫なしでした。



電線で狙いをつける
チョウゲンボウ

以前、ムクドリを捕食している場を見ましたが、この畑にはムクドリはいません。少し離れたところに群れていたのですが、この個体はまだ経験不足の若鳥なのか、野生の中で生きる厳しさを見る思いでした。

(菅谷芳雄)

ECONET INFORMATION

▲ふじさわ・9条の会 20周年記念講演

講師 伊藤真さん (弁護士・伊藤塾塾長)

「戦争をしないと誓った憲法と私たちにできること」

5月10日(土)13:30～ 藤沢市民会館小ホール 参加費¥1000 前売り券¥900 学生無料

主催 ふじさわ・9条の会 090-9239-0864

▲菱山南帆子さん講演会

5月14日(水)10:30-エコスタパパラギ2階

申込み:0466-50-0117 大人1000円

主催 NPO 気候危機対策ネットワーク

▲2025年 平和行進

5月16日(金)10時 藤沢市役所本庁舎集合

日本被団協ノーベル賞おめでとう

核兵器廃絶の実現をとアピール行進します

主催 ピースリレー・ふじさわ

連絡先 090-3513-3142 塚本

▲ここであらそ〜文化芸術フェスタ・藤沢

藤沢市民会館大ホール&前庭 参加費無料

5月31日(土)10:00-17:00

主催/藤沢の文化芸術を考える会

▲若者憲法集会 5/25(日)10:30-

日比谷図書文化館など 平和 労働 憲法など

メイン企画 13:20～ 有楽町朝日ホール

講師/小畑雅子(婦団連会長)

デモ行進 15:45 日比谷公園出発

主催 若者憲法集会実行委員会

メール wakamonokenpou@gmail.com

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

事務局募集 環境問題をご一緒にしませんか!

◆事務局会議5月2日(土)10:00

湘南台市民センター



《編集後記》アメリカがクシャミをすると日本は風邪をひくといわれて久しい。クシャミどころかトランプ旋風が吹き荒れ、自由貿易体制が崩壊しかねない。これまでの日本経済などの在り方が問われている。憲法記念日前に日本の主権を守り抜く毅然とした姿勢が求められている。(kame)